

[04_02]九州大学情報基盤センター広報 : 学内共同 利用版表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1470672>

出版情報 : 九州大学情報基盤センター広報 : 学内共同利用版. 4 (2), 2004-08. 九州大学情報基盤センター
バージョン :
権利関係 :

センターの今後のミッションとそれへのソリューション

九州大学情報基盤センター長

村上 和彰

平成16年4月より情報基盤センター長に就任致しましたこの機会を頂戴致しまして、一言ご挨拶申し上げます。

現在、私どもの情報基盤センターは大きな環境の変化にさらされています。これは、次の4つの要因によるものです。すなわち、①九州大学がこの4月から国立大学法人と独立法人化したこと、②情報基盤の根幹をなすコンピュータやネットワークのありかた自身がわずか数年前と比べても大きく変化したこと、③同時にコンピュータやネットワークの利用方法、利用形態も多様化していること、そして、④来年秋の第1次移転、開校によって本格化する元岡新キャンパスへのサービス提供、ならびに、当センター自身の移転に対応すること、でございます。

上記の環境変化を踏まえまして、今後、当センターにおいては以下の課題設定を行い、これらに対するソリューションを提供していくつもりでございます（当センターは学内共同利用および全国共同利用の2つのミッションを有しています。本広報は「学内共同利用版」と「全国共同利用版」の2つに分けて発行していますが、下記の内容は両者を特に区別していません。つまり、学内共同利用と全国共同利用の話が混在していますこと予めお断りしておきます）。

- ・ 学内の情報インフラの再構築、ならびに、効率的な運用：現在、当センターは学内ネットワーク・サービス（KITE：九州大学総合情報伝達システム）を提供していますが、そのアーキテクチャ（ネットワークの機器構成、接続、等の仕様）ならびに運用管理はネットワークが拡大するのに任せてアドホックかつボランティアベースに形成されたものとなっています。以前のようにネットワークが研究目的のみだった時代ならいざ知らず、今日のように大学内外の社会の共通基盤となってしまった以上、かつ、このようにウイルスやワーム、スパムメールが氾濫する時代においては、ネットワーク・アーキテクチャおよびその上でのサービス体制に関する統一的なランドデザインが必須となっています。そこで、当センターでは、①ウイルスやワーム、スパムのない安心かつ快適な「セキュア・ネットワーク」の構築、②現在ボランティアベースとなっているネットワーク管理者の負荷の軽減、ならびに、セキュリティホールとなり得るサーバーの撲滅を目的に、メールサーバー、ウェブサーバー、等のサーバー機能を一括受託する「ホスティング・サービス」の提供、そして、③学内に散在する多数の情報システムに対するアクセスを1組のIDとパスワードで可能とするシングルサインオン環境を提供するための「全学共通認証システム」の構築、を1セットにした「九州大学情報インフラ再構築マスタープラン」の策定に着手し、その実現に向けて努力していきます。

- ・ 全学共通 e-Learning 環境の構築：本学はご存知の通り、現時点でも既に箱崎，馬出，六本松，筑紫，大橋の5主要キャンパスにまたがる分散キャンパスです。これに来年度から元岡キャンパスが加わり，箱崎と六本松の元岡への統合移転が完了するまでの十余年にわたって6分散キャンパス状態が続くこととなります（最終的には，元岡，馬出，筑紫，大橋の4分散キャンパスに収束します）。このような状況において学生の修学に不便を来たさないよう，当センターでは WBT（ウェブベース・トレーニング）システムを中心に据えた e-Learning 環境を構築し，これを全学で共通に活用して頂くよう推進して行きます。現在でも既に一部の部局においては WBT を積極利用されていますが，これを全学規模で活用するために上記の「全学共通認証システム」と連携する形で利便性を向上させて行きます。また，附属図書館と協力して情報サロンを充実し，学生に対して「どこからでもいつでも好きな時に授業の予習復習が可能な学習環境」を提供するよう努めたいと存じます。
- ・ 高度な計算サービス，データサービスの提供，ならびに，それを基盤とした強力な研究クラスターの形成：当センターは全国に7つある全学共同利用情報基盤センターの1つとして大規模かつ高速なスーパーコンピュータおよび汎用コンピュータをそれぞれ1システムずつ有し，学内外のユーザーに対して高度な計算サービス，データサービスを提供しています。今後は今まで以上にこれらのサービスの高度化，充実化を目指して，①応用分野毎にユーザー会を形成し，コンピュータを極限までチューニングして使用するノウハウの情報交換，情報共有化を図り，かつ，コンピュータシステムに対するニーズを常に汲み取り4年毎のリプレースの際の仕様策定に恒常的に反映可能な体制の構築，②グリッド技術を駆使して世界各地に分散配置されている計算資源，ソフトウェア資源，データ資源を九州，日本に居ても活用できる環境の構築，そして，③近隣の大学の計算機センターとの間で計算サービス，データサービスに関するアライアンス（同盟関係）を構築し，各センターが計算機に対して限られた予算を個別に二重投資するのではなく，アライアンス全体として投資の効率化を図ることの出来る体制の確立，等に取り組んで行きたいと考えています。そして，サービス，応用，ユーザー，研究機関の4次元から成る空間内に多数の強力な研究クラスターを形成できるよう努めて参ります。

以上，当センターが掲げている「挑戦課題」のうちの主要3課題を挙げました。上記以外にも挑戦すべき課題はございます。また，私どもが認識していない問題点，あるいは，私どもが思いつかなかった他のソリューション，選択肢もあるかと存じます。当センターのドアは常にユーザーの皆さんに対して開かれています。ご意見，ご希望，等ございましたら，遠慮なくセンター長まで電子メールでお寄せください（電子メールアドレスは，murakami@cc.kyushu-u.ac.jp）。